

令和6年度 城山東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤として、自らの向上とよりよい社会への発展に寄与するため、主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい人間を育成する。

具体目標（子ども像）

- 心豊かで思いやりのある子（豊かな心） ○よく考え進んで学ぶ子（確かな学力と創造性）
 - 健康で明るい子（たくましい健やかな体力） ○根気強くがんばる子（あふれる気力・実践力）
- 〈スローガン〉 「ふれあい つながり 学び合う 城山東小学校」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人の能力を伸ばし未来をたくましく生き抜くための基礎となる力を培うために、保護者や地域との連携を図りながら、教職員が協働して、知・徳・体の調和のとれた教育を推進する。児童と教職員がふれ合う中で、よさを発揮し生き生きとして輝ける学校、つまり、児童にとって「行きたい学校」、保護者にとって「通わせたい学校」、教職員にとって「勤めたい学校」を目指す。

- (1) 目指す学校像 … 温かさや活気に満ちた学校、安心・安全な学校、地域とともにある学校
- (2) 目指す児童像 … 心豊かで思いやりのある子、よく考え進んで学ぶ子、健康で明るい子、根気強くがんばる子
- (2) 目指す教職員像 … 人間性豊かで信頼される教職員、児童とともにある教職員、学び続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 豊かな人間形成のため、カリキュラム・マネジメントを進めることにより、教育活動のさらなる質の向上と教育効果の向上を目指す。
- (2) 「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、全ての教育活動を通して、生命と人権を尊重する心や他者への思いやりの心を育む道徳教育を推進する。
- (3) 「よく考え進んで学ぶ子」を育成するため、学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- (4) 「健康で明るい子」を育成するため、健康で安全な生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- (5) 「根気強くがんばる子」を育成するため、夢や目標に向かって希望をもち努力させる活動や、学級・学校のために協働する力を育む教育活動を推進する。
- (6) 教職員が倫理観と使命感をもち、資質・能力向上のために自己研鑽に努め、児童一人一人を大切に教育活動を展開し、誰からも信頼を得られるように努める。
- (7) 教職員が健康でやりがいをもって勤務し、質の高い教育が展開できるように、働き方改革の視点に立ち、職場環境改善の取組を推進する。
- (8) ○城山地域学校園と、魅力ある学校づくり地域協議会の組織を活用し、地域とともにある学校づくりを推進し、持続可能な社会の創り手の育成を図る。

【城山地域学校園教育ビジョン】ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園
学校園内小中学校が連携し合い、地域の教育力を生かしながら、「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

《スローガン》みんなで育てよう！自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則並びに学習指導要領、県や市の教育ビジョン等を踏まえ、児童の実態や地域社会の実情に基づき、「人権教育」を基盤に特色ある教育の展開が図れるよう編成する。
- (2) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、心身ともに健康で逞しい児童を育むことを目指して編成する。
- (3) 学習指導要領を踏まえ、教育内容の質的な充実を目指した学習指導を展開し、ICT機器の活用を図りながら、基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた学習指導の充実にも努める。
- (4) カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、思考力・表現力と自己有用感を高めるために、各教科・特別の教科 道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動等の関連を図った教育活動を展開する。特に「大谷プラン」の充実を図り、人や社会と関わる力や表現力を育成する。
- (5) 前年度の評価、児童の実態、社会情勢、地域社会の実情等を踏まえ、教育活動に創意工夫を加えて、児童の主体的、実践的な活動を十分に生かせるように配慮するとともに、目標の重点化による教育活動の精選を行い、児童と向き合う時間や教材研究の時間を産み出し、教育の質の向上を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

| |
|--|
| <p>(1) 学校運営 児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築</p> <p>(2) 学習指導 ○つながりの中で、自ら考え学び合う子どもの育成</p> <p>(3) 児童生徒指導 人とのかかわりを大切に、豊かな心を育てようとする子どもの育成</p> <p>(4) 健康（保健安全・食育）・体力 ○自他の生命を大切に、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成</p> |
|--|

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

| 第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 |
|-------------------------|---|--|-----|--|
| 1- (1) 確かな学力を育む教育の推進 | <p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p> | <p>① 発表や挙手の仕方、ノートの取り方等の「学習のきまり」を徹底し、学びに向かう環境を整えるようにする。</p> <p>② 「自ら考え学び合う子」を育成するために、1人1台端末等を有効に活用したり、「考えるための技法（思考のすべ）」を活用したりしながら、主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。</p> <p>③ 児童の学習意欲を高めるため、教材教具や指導方法について工夫・改善を行う。</p> | B | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 A 1 ⇒ 肯定的回答率が児童 92.1%（+3.7）教職員 89.5%（+10.6）</p> <p>① 長期休業明けに全校統一で「学習のきまり」の確認を行ったことで定着が図られた。</p> <p>② 児童の発達段階に応じて、1人1台端末を有効に活用し、主体的・対話的な授業の取組を行った。</p> <p>③ 宇都宮モデル（「はっきり」「じっくり」「すっきり」）を意識した授業を実施することで、指導方法について工夫・改善を図った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 長期休業明けに「学習のきまり」の確認を行う。</p> <p>② 児童が、1人1台端末を有効に活用するためのスキルの向上を図ったり、「考えるための技法（思考のすべ）」を示したりしながら、主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。</p> <p>③ 引き続き、教材教具や指導方法について工夫・改善を行う。</p> |

1-(2)
豊かな心を
育む教育の
推進

A2 児童は、思いやりの心
をもっている。
【数値指標】
肯定的回答
⇒児童・教職員 85%以上

- ① 伝え合う力や自己を見つめる力を養えるよう、「考え、議論する」授業展開を工夫し、道徳の授業の充実を図る。
- ② 縦割り班活動や縦割り班清掃など異年齢との交流を通して、児童の思いやりの心を育む。活動の最後に賞賛するような場の設定を検討する。
- ③ 各学級の「ふれあいコーナー」などを活用し、児童が認め合うことにより、意欲を高める。
- ④ 全教育活動を通して、人権意識の醸成を図り、児童一人一人が互いに思いやり、相手の立場に立って物事を考えられるように指導する。

【達成状況】()内昨年度との比較
A2⇒肯定的回答率が児童 89.5% (+10.2) 教職員 100% (+15.8)

- ① 授業参観で道徳を行うことで、自己を見つめる力を養った。
- ② 異年齢との交流を通して、児童の思いやりの心を育む活動を続けてきた。
- ③ ふれあいコーナーにありがとうの木等を掲示し、児童同士が認め合う環境づくりを行った。
- ④ 全教育活動を通して、相手の立場に立って物事を考えられるように指導することで、人権意識の醸成を図った。

【次年度の方針】

- ① 道徳の授業では、自他の思いを共感的に知ることができるよう、教師の働きかけを工夫していく。
- ② 全職員共通理解のもと、縦割り班活動やお昼の放送等で、思いやりに関する賞賛の場を設ける。
- ③ ふれあいコーナー(ありがとうの木等)を活用し、児童同士が認め合う環境づくりを行う。
- ④ 全教育活動を通して、人権意識の醸成が図れるような取組等を計画する。

B

A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。
【数値指標】
肯定的回答
⇒児童・教職員 85%以上

- ① キャリアパスポート等を活用しながら、学級活動で「学期のめあて」を掲示し、学期の始めに自分の目標を設定したり学期末に自らの成長や変容を振り返ったりする。
- ② 各教科の授業や各種検定、学校行事(児童会活動)等において、児童が目標をもって取り組むことの大切さに気付かせるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。

【達成状況】()内昨年度との比較
A3⇒肯定的回答率が児童 83.3% (-0.2) 教職員 73.7% (-5.2)

- ① キャリアパスポートを活用して、「めあて」の掲示や目標の設定や変容の振り返りを行った。
- ② 各種検定や学校行事等で、児童が目標をもって取り組む姿が見られた。

【次年度の方針】

- ① 目標に対する自らの成長や変容を自覚できるよう、学期末等、定期的に振り返りの場を設ける。
- ② 各教科の授業や各種がんばり表等を活用しながら、目標の達成に向けて努力している児童に表彰等で賞賛する機会を設ける。

A

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p> | <p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上</p> | <p>① 交通安全教室や自転車免許事業、登下校指導などを通して、交通安全指導の充実を図るとともに、定期的に避難訓練を実施し、安全な道路利用をするなど、児童が自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。 ② 学校栄養士が全校で食育指導を行うことで、児童の食への関心・意欲を高めるように努めるとともに、積極的な情報発信に努める。 ③ 生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかける。 ④ 体力アップ集会や「体づくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。 ⑤ 児童に手洗いや換気など、感染症予防のための行動力を身に付けさせる。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A 4 ⇒肯定的回答率が児童 92.1% (+2.0) 保護者 91.9% (+3.3) ① 保護者やボランティアと連携し、登下校指導体制を話し合い、交通安全教室を通して、取組の充実を図った。 ② 給食時に、学校栄養士が放送や各教室に出向き、食に関する情報提供を行った。 ③ 「保健だより」により、健康的な生活についての周知を図った。 ④ 体力アップタイムでは、児童の運動への関心意欲を高めることができた。 ⑤ 手洗いやうがいなど、感染予防のための正しい行動が取れるよう、指導を行った。 【次年度の方針】 ① 安全な登下校について、交通ルールの遵守を呼びかける。 ② 児童の食への関心を高める取組を継続するとともに授業にも参加していく。 ③ 生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかけていく。 ④ 体力アップ集会や「体づくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。 ⑤ 感染症予防指導を引き続き行う。</p> |
| <p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p> | <p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p> | <p>① 児童が自分や他者の生き方に関心をもち、未来を切り開いていこうとする態度を育むため、総合的な学習の時間において、キャリア教育の取組として「12歳のハローワーク」等を実施する。 ② 係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成する。 ③ 児童の創意や提案を生かしながら、協力して生活をよりよくなる活動を仕組んでいく。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A 5 ⇒肯定的回答率が児童 89.5% (+3.5) 教職員 94.7% (+10.5) ① 「12歳のハローワーク」を実施したことで、児童が職業に興味をもち、他者の発表を聞き、自分の考えを広げることができていた。 ② 各委員会が何をできるか考え実行しており、活動が充実していた。 ③ 児童の提案でお楽しみ会を開いたり、クラスの共有遊びを行ったりするなど、協力して生活をよりよくなる活動ができた。 【次年度の方針】 ① キャリアパスポートの振り返りで自身の成長を実感させていく。 ② 係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成していく。 ③ 児童の創意や提案を生かしながら、クラスの共有遊びなどの時間に、協力してよりよくなる活動を取り入れる。</p> |

| | | | |
|---|--|--|---|
| <p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p> | <p>A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p> | <p>① 児童が英語を使って自分の気持ち や考えなどを伝えることができるよ う、ALTを活用した授業の充実を 図る。 ② 児童が英語を使って簡単なコミュ ニケーションができるよう、給食や 昼休みなどにおいてALTと触れ 合う時間を確保する。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A6⇒肯定的回答率が児童 85.1% (+ 9.9%) 教職員 100% (+5.3) ① ALTを活用することで、児童が英 語を使って自分の思いを伝えようと していた。 ② 授業において、児童とALTとのコ ミュニケーションを図った。 【次年度の方針】 ① ALTを活用して、児童の発話を促 すなど、授業の充実を図る。 ② 英語を使ったコミュニケーション ができるよう、児童とALTとの触れ 合いの時間について検討する。</p> |
| | <p>A7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p> | <p>① 大谷プランの学習等が「宇都宮学」 でもあることと児童が意識できるよ うに授業を展開し、宇都宮の様子や 産業を知る学習を通して、宇都宮の 特色やよさについて理解させる。 ② 生活科「町たんけん」「大谷プラ ン」等を通して、宇都宮の暮らしを 支える人々について関心を高める。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A7⇒肯定的回答率が児童 87.7% (+ 5.9) ① 各教科の学習や大谷プランで、宇都 宮のことを学習し、宇都宮の良さにつ いて理解が深まった。 ② 「町たんけん」や「大谷プラン」を 通して、地域の人々と関わり合うこと ができた。 【次年度の方針】 ① 引き続き、大谷プランの学習等を 「宇都宮学」と関連させながら、授業 を展開していく。 ② 各教科の学習や「大谷プラン」を通 して、宇都宮について興味関心をもつ ことができるようにする。</p> |
| <p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p> | <p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上</p> | <p>① 情報活用能力の育成を図るため、 1人1台端末や学校図書館を活用し た授業を実施する。 ② 読書に関する意識向上のための読 書コーナーの設置等を計画的に行 う。 ③ 授業参観や行事等で家庭との連携 を図り、情報モラル教育を推進して いく。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A8⇒肯定的割合回答率が児童 85.1% (-0.9) 保護者 75.3% (-10.8) ① 授業の中での1人1台端末が日常 化しつつある。学年によって端末の活 用に差がある。 ② 学校図書館司書と協力し、児童会活 動や読み聞かせなど学校の教育活動 に活用している。 ③ 授業参観に情報モラル教育に関わ る内容を取り扱った。 【次年度の方針】 ① 1人1台端末を活用した授業を推 進するとともに、家庭学習においても 活用できるようにしていく。 ② 学校図書館司書と連携し、授業にお いて、図書資料を積極的に活用する。 ③ 家庭と連携を図るために行事等で 情報モラル教育及びデジタルシテ ィズンシップ教育を実施していく。</p> |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p> | <p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上</p> | <p>① 持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」等を実施する。 ② 避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心を持たせる。 ③ 生活科、理科で植物を育てる学習の際に植物や動物を大切にするための意識付けを図る。 ④ ゴミの分別や牛乳パックリサイクル、節電・節水を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識をもたせる。また、PTAや地域協議会と連携し、SDGsを推進できるよう協議していく。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A9⇒肯定的回答率が児童 93.0% (+5.4) 教職員 84.2% (+31.6) ① 総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施した。 ② 避難訓練時に、地震や竜巻などの現象について触れたことで、防災についての関心が高まった。 ③ 生活科、理科で植物を育てる学習の際に植物や動物を大切にするための意識付けを行った。 ④ ゴミの分別やリサイクル、節電・節水を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識の向上を図った。PTAとの連携は行われなかった。 【次年度の方針】 ① 引き続き、総合的な学習の時間等において、環境教育を行っていく。 ② 世界中で起きている自然現象に触れ、興味関心をもたせるようにする。 ③ 引き続き、生活科や理科で、動植物を大切にするための意識付けを図る。 ④ 節電・節水など児童一人一人ができることを改めて周知し、意欲的に取り組めるように声掛けをしていく。ゴミの分別を意識付ける取組を強化していく。</p> |
| <p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p> | <p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p> | <p>① 校内支援委員会を開催し、特別な教育的支援が必要な児童についての情報共有を図り、指導方法や支援方法について検討する。 ② 児童の実態に応じて、かがやきルームにおける指導の充実や、特別支援学級の児童が通常の学級へ交流及び共同学習を行うなど取組の充実を図る。 ③ 2週間に1回、児童に関する情報交換を行い、共通理解を図る。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A10⇒肯定的回答率が教職員 100% (±0) ① 校内支援委員会の実施方法や資料を整備することで、情報の共有がしやすくなった。 ② 担任やかがやきルーム担当教員と連携したり、特別支援学級児童の通常の学級への交流を充実させたりして、指導に必要な情報共有を行った。 ③ 伝える内容の見直しなどにより短い時間で効率的に情報の共有を実施することができた。 【次年度の方針】 ① 校内支援委員会と児童の情報共有を連携させ、素早く児童の支援方法を検討する。 ② 特別支援学級担任やかがやき担当教員と連携し、児童の指導に必要な情報共有を行い、指導支援を充実させる。 ③ 欠席状況・学習・生活の不応等の情報交換を行っていく。</p> |

| | | | |
|------------------------------------|---|---|--|
| <p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p> | <p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上</p> | <p>① 全職員が「いじめ防止対策基本方針」について共通理解を図るとともに、言葉によるいじめの未然防止の取組の充実、初期段階からの組織的な対応の徹底など、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを指導する。</p> <p>② いじめゼロ強調月間における取組や「いじめゼロ集会」等の工夫を行うとともに、家庭・地域とより連携を深めながら指導に当たる。また、実施前後に児童指導だより等で情報発信する。</p> <p>③ 教育相談やアンケートで実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A11⇒肯定的回答率が児童 98.2% (+1.5) 保護者 84.4%(+1.6)</p> <p>① 研修などを通し、「いじめ防止対策基本方針」に基づいた対応の理解が深まった。</p> <p>② 代表委員会の児童を中心に「いじめゼロ集会」を行い、いじめと向き合おうとする意識を高めることができた。</p> <p>③ 教育相談・アンケートによる実態把握をもとに、問題に対して素早く対応できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 全教職員共通理解のもと、いじめ防止の指導にあたる。いじめ防止への取組について周知を図り、家庭・地域と連携していじめの未然防止の取組を行っていく。</p> <p>② いじめの対応について研修を実施し、教職員の知識技能と意識を高める。また、「いじめゼロ集会」等では児童を中心に内容の工夫を行い、いじめゼロの実現を目指す。</p> <p>③ 教育相談やICTを活用したアンケートで、実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。</p> |
| <p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> | <p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① 一人一人の力が活かされ、児童相互に認め合う学級経営の充実を図る。</p> <p>② 「<u>城山東キラリ賞</u>」や「<u>宮っ子心の教育表彰</u>」を活用しながら、日頃から全教職員による認め励ます教育を推進する。</p> <p>③ 不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期対応を図る。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A12⇒肯定的回答率が児童 96.5% (-1.0) 保護者 82.9% (-5.4)</p> <p>① 学習や行事で小集団活動を多く取り入れ、役割を分担し協力することで、相手の良い部分に気付くことができた。</p> <p>② 担任以外の教員からの賞賛も含めてキラリ賞を決めるなど、児童を認め励ます指導を行った。</p> <p>② 定期的な情報共有の場をもつことで、教職員の児童理解が進み早期に連携を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 学級・児童会・行事などで、めあてや役割をもち、生き生きと生活することができるようにする。</p> <p>② あいさつの手本となる児童に先生方が直接賞賛するカードを渡し、児童を認め励まし意欲を高める取組を継続していく。</p> <p>③ 不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期に支援策を構築する。</p> |

| | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|
| <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p> | <p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上</p> | <p>① 児童同士や教師と児童、地域の人材等の資源を生かした人とのつながりの中で、居がいがもてる学級経営を基盤とし、自己有用感と自己実現の喜びを味わうことができる教育活動を実践する。</p> <p>② 昼休み等を中心に、担任が児童と共に活動したり、児童会を中心とした活動を計画したりしてよりよい人間関係づくりをする。</p> <p>③ 縦割り班活動を推進し、児童同士の交流を深める。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A13⇒肯定的回答率が児童 95.6% (+1.4) 保護者 80.6% (-10.2)</p> <p>① 児童がめあてをもって日々の授業や行事に取り組むよう指導・支援することで、やりがいや充実感を味わうことができる機会を多くもつことができた。</p> <p>② 「長縄大会」等の委員会主催の行事では、クラスで団結したり目標達成に向けて努力したりするなど、児童が熱意をもって取り組む姿が見られた。</p> <p>③ 縦割り班活動で異学年交流を推進するとともに、学年に応じてやりがいのある取組を実施することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 日々の授業や行事において、児童がめあてをもち、主体的な態度で取り組むことができるよう指導・支援の充実を図る。</p> <p>② 昼休み等を中心にクラス共遊などの時間をとり、担任が児童と共に活動したり、児童会を中心とした活動を計画したりしてよりよい人間関係づくりをする。</p> <p>③ 縦割り班活動を推進し、児童同士の交流を深める。</p> |
| <p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p> | <p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① 日々の授業がより分かりやすくきめ細やかなものとなるよう、めあて、まとめ、振り返りを行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの明確な提示 ・まとめ、振り返り活動の充実 ・学習形態の工夫、個に応じた指導 <p>② 「考えるためのヒント(思考のすべ)」などを活用し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。</p> <p>③ 朝の学習「ぐんぐんタイム」の活性化を図り、家庭学習の課題の工夫などにより、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 A14⇒肯定的回答率が児童 95.6% (+0.6) 保護者 83.8% (-3.7)</p> <p>① ねらいの提示やまとめ、振り返り活動の充実。学習形態の工夫を行った。</p> <p>② 学習状況に応じて、「考えるためのヒント(思考のすべ)」を活用した。</p> <p>③ 朝の学習「ぐんぐんタイム」では、児童の実態に応じた学習内容を設定し、基礎的・基本的な学習の定着を図った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 日々の取組を継続しながら、学力向上に向けた職員研修や研究授業等の取組を充実させていく。</p> <p>② 「考えるためのヒント(思考のすべ)」の精選を図る。</p> <p>③ 朝の学習では、プリント学習に特化せず、A Iドリルやノート等の活用を充実させていく。家庭学習の課題では、基礎基本の定着を図るための学習を意図的に取り入れる。</p> |

| | | | |
|------------------------------------|---|---|--|
| <p>4- (2) チーム力の 向上</p> | <p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上</p> | <p>① 学校図書館司書、学校栄養職員、学力向上非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。</p> <p>② 「チーム城山東」の一員として、報告・連絡・相談を確実に実施するとともに、互いに助け合える雰囲気作りに努める。</p> | <p>【達成状況】() 内昨年度との比較 A15⇒肯定的回答率が教職員 94.7% (-5.3)</p> <p>① 教職員が協力し、各機関と連携を図り、学校経営計画の具現化に向け、効率的に業務を行うことができた。</p> <p>② 困ったことは相談し合い、分からないことは教え合うことで、組織的に対応することにより、互いに助け合う雰囲気が醸成された。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 司書、栄養職員、学力向上、かがやき指導員、SC、SSW等と連携・協働しながら効果的に業務を進めていく。</p> <p>② 「チーム城山東」の一員として、互いに助け合える雰囲気作りに努め、迅速に組織的に対応していく。</p> |
| <p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p> | <p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p> | <p>① 学校行事の後には振り返りを実施し、次回に向けて効率的な実施方法等について検討するとともに、校務の精選及び効率化により、児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>② 出退勤の時間を意識し、効率的な業務遂行に努めるとともに、リフレッシュデーを確実に実施する。</p> <p>③ 学級支援事務と連携協働しながら、効率的、効果的に業務を進めるように努める。</p> | <p>【達成状況】() 内昨年度との比較 A16⇒教肯定的回答率が教職員 100%(+5.3)</p> <p>① 行事の反省を活かして計画の見直しを図った。</p> <p>② 出退勤打刻やりフレッシュデー等で時間を意識し効率的な業務遂行に努めた。</p> <p>③ 学級事務支援の協力のもと、業務の効率化が図れた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① さらに行事等校務の精選及び効率化に努めていく。</p> <p>② 本年度の取組を継続しつつ、業務時間の短縮を図っていく。</p> <p>③ さらに学級支援事務等と連携し、業務の効率化を図っていく。</p> |
| <p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p> | <p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上</p> | <p>① 地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため、各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内の学校で共通した取組を実施する。</p> <p>② あいさつ運動における小中の交流を実施し、情報を発信したり、家庭でのあいさつの様子を教師と保護者が情報交換したりしていく。</p> <p>③ 地域学校園内で授業を公開し、授業の充実や教職員の相互理解を図る。</p> | <p>【達成状況】() 内昨年度との比較 A17⇒肯定的回答率が教職員 100% (±0) 保護者 77.8% (-10.3)</p> <p>① 地域学校園各部会等で連携し、共通の取組を行った。</p> <p>② 小・中学校間の交流を行い、小中一貫便り等で発信できた。</p> <p>③ 中学校の合唱コンクールを参観したり、中学校からの乗り入れ授業を行ったり、総合の授業で交流したりできた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内で共通した取組を実施する。便りやホームページ等で紹介し、周知していく。</p> <p>② あいさつ運動において、小中で交流したり、取組状況を共有したり、家庭でのあいさつの様子を1人1台端末等で情報交換したりしていく。</p> <p>③ 各部会・各教科部会で園内の教職員の相互理解を図り、授業方法等の充実に努めていく。</p> |

| | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|
| <p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> | <p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> | <p>① 地域の方々、学習ボランティアとの交流や、企業及び関係諸機関と連携した授業を、各学年とも積極的に計画し実施する。「地域協議会」の趣旨を生かしたボランティア募集やPR活動等の活性化により、協力者層の拡大に努める。</p> <p>② 「地域とともにある学校」の具現化を図るため、家庭や地域と連携・協力した取組を充実させるとともに、ホームページや掲示物等で情報を積極的に発信する。</p> <p>③ 校外学習、地域とのふれあい学習、農園活動、教科等（生活科、図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間）などにおいて、地域人材・施設・文化財を積極的に活用する。</p> | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 A18⇒肯定的回答率が児童 94.7%（+5.4）保護者 94.7%（+7.8）</p> <p>① 地域コーディネーターと連携・協力し、学習ボランティアを活用した授業の充実を図った。また企業等と関わった学習を充実させることができた。</p> <p>② 地域協議会委員やPTA役員とともに会議や行事の検討を行い、状況に応じた対応を行った。</p> <p>③ 地域人材・施設・文化財を積極的に活用できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① ボランティア募集やホームページ等の情報発信により、協力者層の拡大に努めていく。</p> <p>② 地域協議会やPTAの意見を参考にして、学校運営に生かしていく。</p> <p>③ 総合的な学習の時間や生活科等の教科において、地域人材・施設・文化財を積極的に活用していく。</p> |
| <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p> | <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上</p> | | |
| <p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p> | <p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・地域 85%以上</p> | <p>① 児童生徒の安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備、器具・用具などの定期的な安全点検を実施し、安全で快適な学校づくりに努める。</p> <p>② 運動会や感謝の会などの学校行事の前後など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。</p> | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 A19⇒肯定的回答率が保護者 91.8%（+8.2）地域 100%（+12.0）</p> <p>① 日常的な点検や迅速な修繕を実施し、安全を確保することができた。</p> <p>② 学校行事等で施設を利用する児童が体育館や校庭を快適に使用できるよう、環境を整備した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 教職員や児童、保護者等の安全に生活する意識を高めていく。</p> <p>② 運動会等の学校行事やPTA行事など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。</p> |
| <p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p> | <p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p> | <p>① 1人1台端末操作のスキルアップを研修等で図って、有効に活用しながら、思考力・表現力の向上に努める。</p> <p>② ICT支援員との連携や機器の保守に努めたり、教職員同士で情報共有したりして、授業の目的にあったツールとして1人1台端末を活用する。</p> | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 A20⇒教職員の肯定的回答率が 89.5%（-10.5）</p> <p>① 1人1台端末が、有効活用できる環境は整っている。教職員においては、授業で積極的に活用している場面が多く見られた。</p> <p>② 学習活動に活用できるツールが増えており、職員研修を通して、スキルアップを図った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 職員研修等で1人1台端末のスキルアップを図る。</p> <p>② ICT支援員との連携や機器の保守に努めたり、教職員同士で情報共有したりして、授業の目的にあったツールとして1人1台端末を活用する。</p> |

| | | | |
|-------------------------------|---|---|---|
| <p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p> | <p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① 継続的な指導に加え、PTA、地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を家庭や地域でも実践していく。 ② 長期休業明けに代表委員を中心にしたあいさつ運動を実施し、振り返りを家庭と共有する。 ③ 下校時の一斉あいさつを各学年当番制で行うことで、あいさつの意識付けを図る。</p> | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 B1⇒肯定的回答率が児童 95.6%（+6.3）保護者 76.0%（+1.9） ① 児童指導日よりや長期休業中の過ごし方などで、家庭でのあいさつの声掛けなどの協力を呼び掛けてきた。 ② あいさつ運動を実施した際は、振り返りを家庭と共有した。 ③ 各学年当番制で集会や一斉下校のあいさつを実施し、意識付けを図った。 【次年度の方針】 ① PTA、地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を継続していく。 ② あいさつ運動を年3回実施し、振り返りを家庭と共有する。 ③ あいさつ強調期間を設け、あいさつ賞賛カードの配付を行う。</p> |
| | <p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① 生活のきまり（「よい子のやくそく」）やマナーについて、児童・教職員・保護者の共通理解のもと、決まりを守るよう指導し、生活当番活動等を行い、具体的な目標に向けて連携して取り組む。 ② 朝の会や帰りの会等で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高める。</p> | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 B2⇒肯定的回答率が児童 91.2%（+3.6）保護者 87.8%（-3.2） ① 「よい子のやくそく」を元に、年度始め・長期休業明けに約束事の確認を行った。 ② 児童指導を中心に、目標の反省や改善点などを話し合い、担当者が交代でその内容を昼の放送で伝えた。 【次年度の方針】 ① 「よい子のやくそく」の徹底や見直しを職員の共通理解のもと進める。児童は、やくそくについて定期的に振り返りを行う。 ② 指導の一般化を図るため生活目標を朝や帰りの会でふれ、全職員共通理解のもと指導にあたる。</p> |
| <p>本校の特色・課題等</p> | <p>B3 児童は進んで本を読んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① 読書の時間や定期的なボランティアによる読み聞かせ、ビブリオバトルなどにより、読書に対する興味関心を高める。 ② 市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。</p> | <p>【達成状況】（ ）内昨年度との比較 B3⇒肯定的回答率が児童 78.9%（-6.2）保護者 72.0%（-2.1） ① 読書の時間の確保やボランティアによる読み聞かせ、読書月間や学期内で図書委員会の児童が読み聞かせを取り入れ、読書に対する興味関心の向上を図った。 ② 市立図書館学校支援室の活用や家読の実践を行った。 【次年度の方針】 ① 今年度の内容を継続しながら、必読図書の入替えを行ったり、読書に関する取組を保護者が見えるように発信したりする。 ② 学級図書の実践や読書ノートを活用し、長期休業を利用しての家読を継続する。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| <p>B 4 教職員は、児童理解を基盤に学級経営の充実を図り、学級内の人間関係づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① Q-U検査等を有効活用し、児童理解と信頼関係に根差した居がいのある学級づくりを目指していく。</p> <p>② 各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。</p> <p>③ 「ありがとうの木」等を教室に掲示し、互いに励ましあう言葉など、温かい言葉が使えるよう常時指導する。</p> <p>④ 児童のよさや成長など、小さな変化を保護者に伝える。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 B 4 ⇒ 肯定的回答率が児童 91.2% (+0.3) 保護者 82.2% (-5.1)</p> <p>① Q-U検査活用研修を実施し、児童理解を深め、学級経営の充実に努めた。</p> <p>② 自主学习を紹介するなど、「ふれあいコーナー」を活用して児童のよさを認めあうことができた。</p> <p>③ 教室掲示のありがとうの木には、人権動画の感想を掲示したり、あったか言葉を掲示したり、温かな言葉に触れる場面を設けた。</p> <p>④ 保護者との連絡を密にし、情報の共有に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 児童理解と居がいのある学級づくりを目指し、Q-U検査の活用や、教育相談への丁寧な対応などを活用していく。</p> <p>② 各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。</p> <p>② 道徳の授業や行事等などの振り返りで「ありがとうの木」を活用し、温かい言葉が使えるよう指導していく。</p> <p>④ 児童のよさや成長など、小さな気持ちを保護者に伝えていく。</p> |
| <p>B 5 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上</p> | <p>① 授業や学校行事で児童に高齢者や学校支援ボランティアとかかわらせることにより、感謝の気持ちをもたせる。</p> <p>② 総合的な学習の時間において、福祉教育の取組として、高齢者福祉施設の訪問などを実施する。</p> | <p>【達成状況】()内昨年度との比較 B 5 ⇒ 肯定的回答率が児童 97.4% (+3.2) 保護者 90.1% (-6.0)</p> <p>① 登下校や大谷プランの授業等において、ボランティアの方々に感謝の気持ちをもたせることができた。</p> <p>② 総合的な学習の時間における高齢者福祉施設訪問は実施し、高齢者と交流を図った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 継続して実施し、ボランティアへの感謝の気持ちを育まれるよう機会を増やしていく。</p> <p>② 道徳や学級活動の授業等で感謝する意識を高めていく。</p> |

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

13評価項目（全25評価項目）については、すべての評価対象において85%以上の結果を得た。

6評価項目において肯定的回答が80%未満となっている評価対象がある。

【目指す児童の姿】

- ・ A 4「健康や安全に気を付けて生活している」については、児童92.1%教職員94.7%、保護者91.9%、地域100%と高評価であった。教職員全員で、健康で安全に生活できるよう児童に指導したり、保護者に便り等で呼びかけたりしたことの成果であると考えられる。
- ・ B 2「きまりやマナーを守って生活をしている」については、児童91.2%（5.6ポイントアップ）、教職員94.7%（2.1ポイントアップ）、保護者87.8%、地域95.7%と高評価であった。教職員が「よい子のやくそく」やマナーについて共通理解を図って粘り強く指導したり、毎月、生活目標を各学級で設定し、帰りの会等で振り返る活動を継続的に取り組んだりした成果であると考えられる。
- ・ B 5「高齢者やボランティアさんへの感謝」については、児童97.4%、教職員100%、保護者90.1%、地域95.5%と高評価であった。授業や学校行事で児童が高齢者や学校支援ボランティアと関わるが多く、活動後にお礼の手紙を書いて感謝の気持ちを伝えるなどしたことが成果に現れたと考えられる。

【目指す学校の姿】

- ・A18「家庭・地域・企業等と連携・協力して…学校運営の充実を図っている」については、児童94.7%、教職員100%、保護者94.7%、地域100%と高評価であった。地域コーディネーターと連携・協力し、学習ボランティアの充実を図ったり、学校周辺の施設等への校外学習を実施したりして、「地域とともにある学校」の具現化に努めた成果であると考えられる。
- ・A19「安全に配慮した環境づくりに努めている」については、教職員100%、保護者91.8%（8.2ポイントアップ）、地域100%と高評価であった。定期的な安全点検を実施したり、年4回の避難訓練や運動会等の学校行事において、安全・安心に活動できる計画を立てて実施したりして、児童の安全な学習環境の確保を図れたことが成果に現れたと考えられる。

【本校の特色・課題】

- ・A8「デジタル機器や図書等を学習に活用している」については、児童85.1%、教職員94.7%であるのに対し、保護者は75.3%（10.8ポイントダウン）となった。デジタル機器や図書の活用について、授業参観等の行事との関連を図るとともに、1人1台端末を家庭学習や保護者との連絡ツールとして積極的に活用していく必要がある。
- ・A13「活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」については、児童95.6%（1.4ポイントアップ）、教職員100%、地域100%であるのに対し、保護者は80.6%（10.2ポイントダウン）となった。学校の教育目標達成に向けて教職員が協働して、さらに、児童の自己有用感を高める活動や居がいがもてる学級経営を基盤とした人間関係作りに取り組み、今後も思いやりの心を育み、活力ある学校づくりの推進を図っていく必要がある。
- ・B3「本を読んでいる」については、児童78.9%（6.2ポイントダウン）、教職員84.2%（15.8ポイントダウン）、保護者72.0%、地域88.2%であった。今後も家読を推進したり、読書に対する関心を高める活動をしたりして、家庭や地域と連携しながら、本に親しむことの重要性について共通理解し、取組の充実を図る必要がある。

7 学校関係者評価

- ・アンケートの回答率が、児童・教職員・地域住民は100%、保護者は昨年度よりも上がり、85.1%の回答を得られたことは、学校の教育活動に対して関心が高いことがうかがえる。今後も保護者の回答率をさらにあげていける取組の工夫が必要である。
- ・13評価項目（全25評価項目）については、すべての評価対象において85%以上の結果を得たことについては、持続継続していただきたい。昨年度より下がった項目は、向上するよう努力が必要である。
- ・学校は、地域から豊富に人材を活用する等、「地域とともにある学校」を推進している。
- ・教職員も、さらに保護者や地域の方々と連携を密に取り、学校や地域の発展のために、協力する姿勢を保ち続けてほしい。学校側からの情報発信を継続していただきたい。
- ・1人1台端末の活用については、賛否両論がある。デジタル機器を使用する機会が増えれば、本に触れる機会が少なくなる。適切な使用方法やルールについて低学年を中心に更なる指導が必要である。幼稚園では、デジタル機器を日常的に活用している園児が多いので、紙の本に触れる機会を多く確保している。それぞれのよさを子供たちや保護者に繰り返し情報発信していく必要がある。
- ・児童の自己有用感の確保であったり、居心地のいい居場所づくりであったり、大きな課題であると感じる。就学後だけでなく、就学前からあらゆる視点からの働き掛けを行っている。今後さらに幼保小の連携を図ってもらいたい。
- ・あいさつについては、以前より、元気にできるようになったと感じている。また、子供たちは、礼儀正しく、ボランティアの方々へ感謝の気持ちや敬意表すことができていた。
- ・授業等、学習のめあてを達成している児童が多いと感じた。
- ・いじめや不登校を生まない学級づくりに関して、児童や教職員の肯定的回答が高く、児童が仲よく居心地のよい学校生活を送れている。
- ・教科や学級活動等で、宇都宮の地域のよさを位置づけて、宇都宮を知る機会を増やしていくとよい。大谷プランは継続してもらいたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

今年度、「児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築」の重点目標のもと、地域との連携を図りながら、地域とともにある学校を目指してきた。次年度も継続して、児童が主体的に活躍する場を意図的に設けたり、活動内容の意義を児童に理解させたりして、地域の協力を得て、開かれた学校づくりを実施していく。また、教職員の学び合いと職場環境の改善を図ったり、児童一人一人の居がいのある学級づくりに努めながら、児童のよさを認め励ます指導を続けたりして、安全安心で温かさや活気に満ちた笑顔あふれる学校づくりに努めていきたい。

【学習指導】

「つながりの中で、自ら考え学び合う子供の育成」の重点目標のもと、めあての共有と言語による振り返りを重視し、「分かる」「できる」「楽しい」等を実感させる授業の展開を工夫したり、基礎基本の確実な定着を目指し、朝の学習の「ぐんぐんタイム」や1人1台端末の活用等での個に応じた指導の充実を図ったりしてきた。さらに、次年度も、学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力等を育成するために、児童が考え、学び合う時間を保障し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図っていききたい。また、1人1台端末等の効果的な活用について、さらに研修による研究を深め、個別最適な学びの充実を目指して、教師の授業力向上に努めていきたい。

【児童生徒指導】

「人とかかわりを大切にし、豊かな心を育てようとする子供の育成」の重点目標のもと、あいさつキラリ賞やあいさつ運動の取組等を通して、児童の自分から進んであいさつしようとする意識が向上してきた。また、学校行事や特別活動等で自己有用感を高めたり、様々な人との関わりを通じた大谷プラン等の体験活動で、他者を思いやる豊かな心を育んだりすることができた。今後も、地域や保護者と連携しながら、「進んで心のこもったあいさつのできる児童」「互いを認め励ますことのできる思いやりの心の育成」に注力し、児童理解に努め、居がいのある楽しい環境づくりに努めていきたい。

【健康（体力・保健・食育・安全）】

「自他の生命を大切にし、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子供の育成」の重点目標のもと、避難訓練や交通安全教室等の学校行事の実施や登下校指導での見守り指導、学級活動等で、自らの心身の健康を維持するため正しい判断力と行動力を身に付けられるよう安全指導の充実を図ってきた。今後も、日常的な安全に生活するための意識改革や危機管理意識の高揚を図っていききたい。体力アップタイムや各種検定で運動への関心を高め、運動技術の向上を図ったり、食育指導や保健指導を推進したりするなど、健康への関心を高め、体力の向上と望ましい食習慣や健康を管理する力を身に付けるよう心がける子どもの育成に努めていきたい。